

クルリンと ほしぞらさんぽ 12月号



皆既月食、見ましたか

天体イベントに晴れることは少ないのですが、今回11月8日の皆既月食の宵はみごとに晴れましたね。どこで見ましたか。暗くなって月面が赤っぽくなるまで見ましたか。小さい双眼鏡でもじゅうぶんに楽しめましたね。

12月には流星群がありますよ

あなたは流れ星を見たことがありますか。もしまだだったら今月はチャンスです。12月14日はふたご座流星群の極大が予報されていますし、12月23日から25日にかけてこぐま座流星群が見られそうと予報されています。14日のふたご座流星群は午後10時前に月が上りますが、それでも流れ星が見えないことはないでしょう。23日は一晩中月明かりがありませんから、好条件と言えますね。

流れ星を見るときに大事なことは、空を広く見渡すこと、目を離さないようずっと空を見上げていること、です。寒空ですから風邪などひかないように十分に暖かくして、安全な場所でそしてしんぼう強く見続けましょうね。

そろそろ冬の空に

冬の星々は夏とは違った美しさがあります。星座早見盤で調べてから、下の星図を使って東の空を見てみましょう。まず目につくのはおうし座のプレアデス星団ですね。目のいい人ならば星が6つかたまっているのが見えるはずですよ。小さい双



眼鏡でも美しい星のかたまりが見えます。星の色は何色かな。やや青っぽく見えるはずですよ。およそ6000万年前ぐらいに誕生した若い星たちの集まりと考えられています。写真で見るともったくさんの星の集まりだとわかります。上がその写真で、子ども科学館のたぬき先生が撮りました。

このプレアデス星団は江戸時代の人たちもちゃんと見ていて「すばる」と呼んでいました。スバルは宇宙の一つの大きなガスのかたまりからほぼいっしょに生まれた姉妹の星々で、地球からの距離も同じぐらい、444光年にあります。このように固まっている星々を散開星団といいます。

おうし座といえば中心はアルデバランですね。質量は太陽の2倍ぐらいですが半径は50倍ぐらいもある巨星で、地球からの距離は65光年、スバルの少し下（東）から上がってきます。

このアルデバランの周りにも散開星団があってヒアデス星団と呼ばれています。



こちらの星団は5億年ぐらい前に誕生したと考えられていますが、スバルよりもずっと近いので(150光年)星団のようなまとまりが見にくいですね。

スバルの左側に星が弧状こじょう(弓のような形)に並んでいるのが見えると思います。これはペルセウス座です。

北を向くとカシオペヤ座が空高く見えます。Wの形の形に並んでいる星ですから見つけるのはやさしいでしょう。カシオペヤから北極星を見つけやすい時期ですから、だれが最初に見つけるか、競争してみよう。

西側の空が開けている場所だったら、よくよく見るとなんと「夏の大三角」がまだ見えているのですよ。

木星と火星

中天には木星が輝き、東の低い空には火星が赤々と見えています。火星は2年2ヶ月ごとに地球に近づきますが、今回はそれほど大きく近づかない「中接近」です。1等星というよりは2等星に近い感じですが、土星も見えています。国立天文台の図をよく見て探してみましょう。

